第５号

# パートナー香澄

２００８年４月30日発行
パートナー香澄編集委員会

## 転勤先の思い出（投稿）

昭和３５年社会に出、平成１３年退職するまで６度の転勤を経験した。その内神戸と札幌での生活の思い出を語りたい。両市とも大都市でありながら近くに自然が多く、落着いた町並みである点が共通している。

神戸には二度勤務し、一回目は小さな三人の子供を連れての生活で、社宅は有馬温泉に近い六甲の山中に新しく開発された町にあった。少し歩けばハイキング、山遊び、ヘラブナ・タナゴ釣り（六甲山中には溜池が多い）。長男は友達とイモリ捕りや貝化石探しに夢中になったこともある。夏には須磨浦海岸、時には日本海まで足をのばして海水浴を楽しんだ。夕方には社宅の仲間と子供たちを連れて、近くの沢で“冷やしそうめん”を食べたりした。

神戸の二度目は単身。夜の町で飲むことも多かったが、淡路島、瀬戸内海の小島での海釣りも楽しんだ。中でも毎年１１月に開催される「六甲全山縦走大会」は特別。４千人前後の参加者があり、５６km の山道を約１５時間歩く。宝塚に降りたった時の達成感は忘れられない。

この神戸からあの大地震の１年半前に転勤となった。いつも歩き回りよく知った街だけに、言う言葉が無かった。先任の工場も６０億円の損害を蒙った。

次の北海道での生活は家内と二人きり。シーズンになるとよく子供たちや親類の宿になった。札幌の町中に標高２３０ｍの丸山があり、頂上から札幌市内が一望できた。山中には小鳥が多く、たまにエゾリスの姿も見られた。約９年滞在したので安宿を利用して道内各地を訪れた。

スキーの出来ない私は“歩くスキー”を覚え、「札幌国際スキーマラソン大会」の１０km の部に参加、あの荻原次晴さんと併走？したこともある。他にもいろいろあったが、「カニを土産に買うなら品が良く、値段も手軽なデパチカで」「北海道の家の中は茨城よりずっと暖かい」をお知らせして筆をおきます。　（高崎　正）

### 「エコ農業クラブ」平成20年度活動の予定

このクラブは昨年５月の第２期ﾊﾟｰﾄﾅｰ活動の開始に併せて、ｾﾝﾀｰ正門前の荒れ果てていた畑地をﾌｨｰﾙﾄﾞにﾊﾟｰﾄﾅｰ有志で立ち上げた「自主活動」組織です。

昨年は活動初年度でもあり、作付作物も会員個々が種子や苗を持ち寄って作付けした為ｷｭｳﾘやｵｸﾗなど毎日の収穫作業が必要となり、担当のｾﾝﾀｰ職員に余計な手間をお掛けしました。

このため昨年 12 月 20 日にクラブの総会を開き、平成 20 年度の活動について話し合った結果以下の通り合意を見ました。

①作付作物は、さつま芋、じゃが芋、大根など１度に収穫できるもの。
②活動日は生物ﾋﾞｵＧとの競合を避け、第１木曜日と第３日曜日に変更。
　活動時間は夏（9：30～）冬（10：00～）ともに約２時間程度。
③種子・苗・肥料・燃料等の購入、トラクタの借上げ謝礼などに当てるため
　年会費１人 1,000 円を徴収する。
④生産物は原則として、ｾﾝﾀｰの行事、ﾊﾟｰﾄﾅｰ活動に利活用する。

今年前期の作付は、３月２日（日）春の霞ヶ浦清掃大作戦の参加に引続き午後から、各方面の有志から寄贈された「種じゃが芋」20 数 kg の植付けを行い、４月３日残りの３畦に春大根の種蒔き等を行った。これらは６月下旬収穫の予定です。

後期には、さつま芋を主体に作付けし、夏のｾﾝﾀｰ祭りやｾﾝﾀｰ料理教室、ﾊﾟｰﾄﾅｰ交換会などに食材として提供できればと考えています。「エコ農業クラブ」活動にご理解を戴き、新たに入会・参加される方を歓迎します。
（ﾊﾟｰﾄﾅｰ・有吉までご連絡下さい）　（有吉）

### センターからお知らせ

４月からパートナー活動の企画・運営等について担当することになりました。

自宅は、水戸市の白鳥が多く飛来する大塚池の近くです。低山歩きが好きで、２～３名のグループで、主に県北地域や栃木近郊の山を歩いています。

今後、人と自然の共生する環境を目指し、パートナーの皆様方の協力を頂きながら、各種事業に取り組んで参りたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

企画・交流課
田島邦彦

【パートナー活動関係職員新旧表】

| 担当業務 | 担当職員（新） | 担当職員（旧） |
|---|---|---|
| パートナー活動全体（主担当） | 田島　邦彦　　主査 | 井上　秀毅　　嘱託 |
| 生き物グループ（魚ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ） | 中村　　誠　　嘱託 | 石川　享市　　嘱託 |
| 図書グループ | 大澤　麻衣子　主事 | 萩野谷　正気　主任 |

## 野鳥と楽しむ（その２）

新緑の季節となって、ウグイスや色々な野鳥の鳴声が賑やかになってきました。我が家の周辺では野鳥が多く、以前からﾊﾞｰﾄﾞｳｵｯﾁﾝｸﾞや給餌などをして楽しんできました。

野鳥への興が高じて数年前から仲間と一緒にﾊﾞｰﾄﾞｶｰﾋﾞﾝｸﾞを楽しんでいます。実物や図鑑など色々な資料を頼りに、木を素材として彫り出し、彩色し、自然の中の野鳥の姿を作り上げる彫刻です。木に止まっている姿やしぐさ、羽の形、色など鳥それぞれの特徴を彫りこみます。

カワセミ（ﾊﾞｰﾄﾞｶｰﾋﾞﾝｸﾞ）

“外に出かけた時は、注意深く細かく野鳥を観察し、親しみを感じ、野鳥の美しさを実感しています。

また、木からイメージした姿の鳥を彫り出し、実物に近い彩色そして台座作成・取付け等、手作りの楽しさも堪能しています。

霞ヶ浦周辺にはたくさんの野鳥がいます。これから霞ヶ浦の野鳥の彫刻にも挑戦してみたいと思っています。　（大島）

## 桜見

何十年ぶりだろうか、上野の夜桜を見に行ったのは。先ずは“花より団子”で、ビールと熱い肉マンを両手に持ち、歩きながら花見を楽しんだ。多くの花見客が上野公園に繰り出しているがその割りには整然としており、あちらこちらで粛々と酒盛りしながら夜桜を楽しんでいた。分別回収のゴミ箱はいくつも仮設されて、昔の上野の花見といえば騒音とゴミの山しか記憶に無い私にとって大変な驚きであった。騒音問題やゴミ問題の関心が近年深まってきたためだろうか？。

潮来　長勝寺

ところで、今年の桜の開花は平年より早いそうだが、昨年は気象庁の人達が雁首そろえて「開花時期の間違い」を謝罪した場面が何度か放送された。そのとき何か釈然としないものを感じたのは、開花を決めるのは桜の勝手であるのに、それを人間が支配しているかのような表現に受取れたからだ。

花の命は短いけれど今年も桜見のはしごを続けたいと思っている。　（平江）

## 我が家のシンボル

ふと、二階のベランダに出た時のことでありました。純白のドレスの裾を広げたように上品で眩しい白が目に飛び込んできました。それは、我が家のシンボルツリーでもある樹齢４０年を経た満開のハクモクレンの花でした。まだ、桜が四分咲きのこの時期、存在を誇示するように今年も見事に咲きました。

ハクモクレンは、モクレン科、花は３月、高さは8～１５mにもなる落葉高木で名前は、花の白いモクレ　と図鑑に載っています。

この木は、私が若かりし頃、近くの造園で太さ５cmほどの苗を購入して庭に植えたものです。以来、長年に渡り私の成長を見続け、そして私もこの木の成長をずっと見つめてきました。

厳しい冬の間はムクムクのビロードのような綿毛に身を包み辛抱強く春の訪れを待ち、そして春にはそのビロードのマントをさらりと落とし、ゆっくりと、ゆっくりと蕾の何倍もある大きな花びらを開いて見せてくれるのです。

しかし、花の命は短いもので桜がし、地面を白く覆います。そして、に葉が開き、やがて夏の日差しを身上の植物を守るように葉を繁らせま

やがて、強い日差しを受けた葉は大きな落ち葉となって地面を覆い、備がはじまるのです。まるで自分のにこの木の一年も過ぎて行きます。です。

見ごろになると大きな花びらを落と消耗した栄養分を補給するかのよう体いっぱいに受けつつ、あたかも地す。

気温の低下とともに、茶色に変色しやがて来る厳しい寒さに向けての準人生とオーバーラップするかのようちなみに花言葉は「自然の愛」だそう

我々は、毎日の生活の中で自然の恵みを沢山受けています。それを心に留め、おごることなく自然と向き合い、大きな愛を持って生きて行きたいものです。　（尾形）

## 大人にも絵本を

この表題はノンフィクション作家・柳田邦夫さんが昨年６月、読売新聞の紙上対談「大人に絵本をすすめる」の中で述べていた言葉です。

私など絵本は幼児期からせいぜい小学生までと思い、またそのつもりでセンターの読み聞かせ活動をしており「うん？何のことか」と思い最後まで読んでしまいました。この対談の感想を聞かせてくれ、とも書いてありましたので、簡単に書いて応募しました。

昨年１２月、柳田さんの感謝のごあいさつ文とともに「ティータイムに絵本を」という小冊子が送られてきました。その中には「絵本は人生で三度読むべきもの」とし「幼い時」「親になった　時」「人生の後半に差しかかった時」を指摘されていました。

また絵本は言葉は少ないが、その分想像力をかきたてるし、絵本作家は真剣に何年もかけて構想を練り、作品化してゆくので絵の中に深い意味を塗りこめており、その表現の仕方は子供にとっては子供なりに面白く、大人が読んでも感動するといういろんな顔をもっているとも書かれていました。

読み聞かせ会には親子同伴の場合が多く、これまでは子供に焦点を置き、大人は絵本にはあまり興味が無いものと思い込んで読んでいましたが、これからは絵本の奥行きの深さを肝に銘じ、観客倍増の心境で臨みたいと思っています。　（浅野）

## ミネラルウォーターをうまく利用しよう

ミネラルウォーターは大変多くに人達に飲まれています。日本で市販されているのは硬度２～1500位まで。この硬度によって一般に言われている軟水と硬水に分けられます。WHO(世界保健機関)の定義によると硬度60未満を軟水、60以上120未満を中硬水、120以上180未満を硬水、180以上を非常な硬水に分類される。軟水、硬水の区別や硬度はペットボトルのラベルに表示されています（軟水、硬水の表示無しのものもある）。

ミネラルウォーターの特性をうまく利用することによって飲み水や料理の味、香りが引き出せるとしたらどうでしょうか。皆さんも試してみては如何ですか。

例えば、お茶には人それぞれ好みがありますが、軟水を使用すると緑茶の渋み、苦味を楽しむことができ、硬水ではよりマイルドになります。またコーヒーはアメリカンでは軟水を使うと豆本来の良い香りとさっぱりした味を楽しむことができます。

料理では昆布やカツオのだし汁をとるときに軟水を使うとグルタミン酸、イニシン酸のうまみが抽出されやすい。肉料理では、軟水は抽出力が強いので肉の臭みが出てしまいます。硬水を使うと肉のタンパク質とカルシュウムが結合してアクとして抜けてよい味が出てきます。　（栗原）

## ROUTE354

皆さんはセンターに来るのにどんなルートを通っていますか。私は鉾田市在住で国道354線の起点から土浦に向けてほぼ一直線で通っています。自宅を出て少し走れば北浦で、鹿行大橋で北浦を横切ります。この橋は途中に車がすれ違うための待機場所が何ヶ所か設けられている、大橋とは名ばかりで国道とは思えない狭い橋です。

行方市に入れば田園風景の広がる中の快適な道路が続き、西浦を唯一横断している霞ヶ浦大橋にぶつかります。このあたりが道中の中間点です。「霞ヶ浦ふれあいランド」や「道の駅たまつくり」などがあり、休憩場所に最適です。また大橋と筑波山などビューポイントの一つでもあります。センターオープン時には有料道路でしたが、今は無料になりトラックなど通行量が増えています。

かすみがうら市から土浦に近づくにつれ人家も増えてきますが、里山や雑木林・梨畑などが点在し四季の風景を変えてくれます。

好きなCDを聞き、四季を感じながらの片道39ｋｍのドライブ、今年も楽しみながら安全運転でセンターに通いたいと思います。（安川）

途中に待機所のある鹿行大橋

ビューポイント霞ヶ浦大橋

環境問題はなぜウソがまかり通るのか！

武田邦彦著「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」が、著者のテレビ番組出演をきっかけに２５万部突破のベストセラーになっているという。要旨は「地球温暖化で水位は上昇しない」「紙のリサイクルは意味がない」「ペットボトルリサイクルのデータ捏造」「節電すると石油の消費量が増える」等々らしい。「地球温暖化で水位は上昇しない」の項では《北極の氷が溶けても海水面は絶対に上がらない》というフレーズをアルキメデスの原理で論証しているが、海水面に浮揚する氷ではなく世界最大の島グリーンランドの氷床の溶解にはあまり関心を示していないというから、その論の浮薄さに驚かざるを得ない。

著者が東大教養部卒の中部大学教授だと聞けば、ささやかなエコ対策に一生懸命取組んでいる人達には

一歩立ち止まる人もいるに違いない。こういうエセ理論のはびこる余地のない、しっかりした基盤を整備し、確固とした地球温暖化対策の世論を形成してもらいたいものだ。（稲葉）

## 香澄俳壇

満開の　椿でメジロ　かくれんぼ

小春日に　浮かれカワセミ　ダイビング

（以上大島作）

川音に　若葉あざやか　越後旅

春の雨　連れ帰るかな　夫婦旅

春雨に　ふと偲ばるる　母の顔

無残にも　桜花散らして　ゆく嵐

（以上尾形作）

## 『パートナー香澄』原稿募集

「パートナー香澄」の原稿を募集しています。特にテーマは設けません。

パートナーご自身のプロフィールとセンターでの活動体験記や身の回りの話題など何でも結構です。写真の添付も歓迎します。

次号は7月末発行予定で、原稿締め切りは6月20日です。

パートナー室パートナー香澄メールボックスにお入れ下さい。

編集委員
尾形　孝彦
浅野　明宏
有吉　　潔
大島　寿夫
栗原　知彦
平江　俊之
安川　敏行
稲葉　　寛